

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和五年二月度 入賞句一覽

投句数 五百十七句

持選

大堀 武直 選



白寿へと踏み出す一歩すみれ草

大垣市 山田 賀子

作者は九十歳。白寿を目指してこれから進もうとされている。取合せた「すみれ」の花言葉は誠実・謙虚・小さな幸せ。控えめで奥ゆかしい咲き姿に由来する。道端で見掛けたすみれ草に作者の心情を象徴させた。

快晴の天に描くや合格と

東京都西東京市 石井 一郎

合格の喜びを身体で表現する方法はいろいろある。跳び上がる・大声を出す・ガッツポーズなどなど。しかし、作者は天に向かつて大きく「合格」と描いた。そこにユニークさがある。快晴の天に作者の晴れ渡る気分が出ている。

読めぬ字は小声となりしかるた会

大垣市 鶴田 信子

字を覚え始めた頃の子供の様子であろう。かるた会の読み手をさせてもらって、意気揚々と読み始めたのは良いが、途中で読めない字が出て来た。さあどうしよう。その戸惑いが面白くかわいらしい。作者はそつと読み方を教えたのではないだろうか。

秀逸

狛犬の尻尾隆々春を待つ

福井県敦賀市 山田 美千代

ポケットに手袋あづけ弾む手話

養老郡養老町 田中 紫香

毛糸編むときに大きく解きつつ

東京都新宿区 花澤 ちいこ

口紅をひいて写真を年あらた

大垣市 酒井 和美

少年は手足より伸び風光る

愛知県名古屋市長 館野 茂子

年の暮れ笑顔の母に乾杯す

京都府宇治市 椎原 園美

挨拶も郷の訛や初座敷

三重県四日市市 井戸 康子

雪兔一跳ねもせず消えにけり

福岡県福岡市 大津 英世

いかのぼり傾きながら高みへと

東京都足立区 木幡 忠文

道すがら豆撒く声の幼稚園

安八郡神戸町 早津 郁男

入選

ひらがなで靴に名を書き春を待つ

大垣市

傍島 隆

手を合わす一人静かな雑煮膳

大垣市

石垣 珠泉

書初や硯の海へ奈良の筆

不破郡垂井町

久保田 紘義

いつもの歩幅一月の風の中

東京都世田谷区

関戸 信治

雪解川水といふ水急ぎけり

養老郡養老町

佐藤 咲楽

聴診器手に温めて初仕事

埼玉県川口市

吉永 寿美子

千代の春幣は真白に楠大樹

大垣市

小林 研

久々のかくれんぼなり良寛忌

大垣市

長谷川 路山

冬木の芽夢を見てゐるさなかです

大垣市

新町 恵子

弓始びたりと据はる乙女之眼

福井県敦賀市

山田 美千代

春の日やポニーテールと自転車と

養老郡養老町

山田 順子

左義長の火焰に身体裏返す

揖斐郡大野町

横山 道男

よく透る翁の声や能始

大垣市

岡田 博志

空の色野辺の色にも春近し

兵庫県加古川市

戸田 ミツヨ

荒星や電話ボックスぽつねんと

静岡県藤枝市

山本 紫苑

払暁の光に揺るる薄氷

愛知県尾張旭市

小野 薫

年新たな手帳新たな的一步かな

静岡県静岡市

松永 信介

縁側に干す欠餅の反り返り

三重県三重郡

水野 悦子

歓声や一時間目は雪合戦

大垣市

すみのサクラ

鈍色の山迫りくる久女の忌

大垣市

平野 きぬよ

選者吟

地球儀の埃を払ふ建国日

武直



一般の部